

印西市立滝野小学校

1 学校の紹介

(1) 学校及び地域の概要

本校は、印西市旧本埜地区の西部に位置し、平成9年4月に千葉ニュータウン計画23住区に新設された。滝野中学校と建物が一体化しており、教室はオープンスペース、一部特別教室が共有施設になっている。滝野の街の中央に位置し、街のシンボリック的存在になっている。

住民は生活の利便性と緑豊かな環境を求めて、関東近県から転居してきた家庭が多く、核家族化が進んでいる地域である。保護者の大半は、東京やその近郊に通う会社員等で占められており、教育に対する関心は高い。

(2) 学校教育目標

本校では、学習指導要領の「生きる力」を育成することを受けて、学校教育目標を「未来を見つめ、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」と定めている。そして、目指す児童像を次のように設定した。

- ①夢を育み生命を大切にする子（やさしく）
- ②めあてをもって学ぶ子（かしこく）
- ③心身のたくましい子（たくましく）

(3) 読書活動に関する目標

- ・読書を楽しむことを通して、豊かな心情を育てる。
- ・図書館を活用することで、情報を活用する能力を育てる。

2 自校の図書館の現状

(1) 整備状況

・学校図書館図書標準の定める冊数	9, 560冊
・平成26年度末の学校図書館の蔵書数	9, 269冊
・学校図書館図書標準の達成状況	97%

※標準近い達成率ではあるが、古い本が多く、資料価値が低い本も含まれている。買い換えたいが予算的にかなり厳しい状況である。

※中学校と共有の図書館なので、スペースにも限りがあり、図書室外（各階のスペース）にも本を置いている。

(2) 利用状況（図書館の月貸し出し数）

- ・一人あたり約2.5冊

※高学年にいくほど、自宅から本を持ってきて読んでいく傾向がある。

3 学校図書館司書および図書館担当教諭の取組

(1) 校内組織と主な役割

校長-教頭-研究推進委員会-図書指導部(図書館担当教諭・各ブロック)-図書委員会

※図書指導部では、楽しんで本を手にとる子を育てるため、読書の啓発活動(掲示物作成)などを行う。

※図書館担当教諭は、職員と学校図書館司書の連絡役や市立図書館からの団体貸し出しの窓口、図書館で購入する本の選定、図書委員会の運営などを行う。

※学校図書館司書は、図書館の環境整備や教科に関わる本の選定、授業支援などを行う。

(2) 子どもや職員に対する支援

① 図書館の運営に関すること

学校図書館司書による図書館利用についてのオリエンテーション実施

○全学級の児童に対し、学校図書館の利用の仕方についてのオリエンテーションを毎年4月に実施している。オリエンテーションの内容は発達段階に合わせて行った。図書館のマナーや貸し出し・返却の仕方、図書館の本はどのように置かれているのか(分類番号など)を知ること、皆が気持ちよく使えるようになった。また、最後に読み聞かせやブックトークをしたことで、早く図書館で本を読みたいと思う子どもが増えた。

図書室環境整備ボランティア

○保護者から環境整備のボランティアを募り、市立図書館の方をお呼びして本の修繕方法を学んだ。その技術を生かして傷んだ本の修繕を行った。また、季節の掲示物を前もって作り、ストックすることもできた。

おすすめ本コーナーの設置

○図書室前に本校職員が幼い頃読んでおもしろかった本を写真入りで掲示し、本も合わせて掲示することで子どもたちの興味関心を高めた。

○図書室内は司書が中心になって今話題の本や、季節にあった本の展示を行った。児童が本を読む机の中央に置くことで、興味をもって本を手にとる子どもが増えた。



②図書推進活動に関すること

朝読書の実施 金曜日8:15~8:30

○朝の会が終わったら時間を15分間とって朝読書を行っている。あらかじめ本を決めておくことで、静かな時間の中で集中して本を読むことができ、学習への移行もスムーズに行えている。また、続きが読みたいことで休み時間や、給食の準備中などのすき間時間に本を手にする子どもが増えた。また、学級ごとに読み聞かせやブックトークも不定期ながら行っている。

読み聞かせボランティア「お話ひろば 色えんぴつ」金曜日8:15~8:30

○第1金曜日（低学年）、第2金曜日（中学年）、第3金曜日（高学年）に地域のボランティアの方が来校して、読み聞かせを行っている。机を後ろに下げ、扇状に子どもたちが読み手を囲んで座ることで一体化し、物語に引き込まれている子どもが多い。また、読み聞かせで扱った本も、一定期間図書室に展示されているので、手に入る子どもが多い。



○月に1~2回、昼休みに自由参加という形式で読み聞かせを行っている。特に低学年の児童の参加率が高い。

また、1年に1回スクリーンやパネルシアターを使った大規模なお話会も実施している。クリスマス近くに行われることが多く、子どもたちも楽しみにしている。



本校校長による読み聞かせ

○不定期で給食の時間、校長自ら本を選書し、全校を対象に読み聞かせを行っている。読んだ本は、職員室前に他の本と共に展示してあり、職員室に来る子どもたちも興味深そうに見ている。子どもたちは給食中も本の世界に浸ることができ、和やかな時間を過ごせている。



図書委員会の活動

ア 「読書の木」の設置

- 読書の木を各フロアに設置し、自分が読んでおもしろかった本を書き、展示した。展示することで次に何を読もうと意欲が高まったり、友達が読んだ本を見て、借りに来る子どももいる。



イ 図書まつり

- 本に興味を持ってもらうために毎年実施している。今年は落語「まんじゅうこわい」の slides による上演と落語シリーズの本の紹介を行った。暗闇の中、画面と図書委員の語りに会場は笑いに包まれ、とてもいい雰囲気の中終わることができた。図書委員の活動により、日頃手に取らない分野の本も読むきっかけになった。



ウ 辞書引き大会（3～6年生対象）、読み聞かせ（1，2年生対象）

- 辞書の引き方を習得すると共に、素早く辞書を引くことができるように毎年大会を実施している。

内容的に対象が3～6年生なので、低学年の友達も本に親しむことができるように、朝読書の時間を使って図書委員が読み聞かせを行った。

学校図書館司書による取組

ア 読書月間（11月）のイベント：読書ビンゴ

- 「子どもに読ませたいほん100冊」などを参考にして、低中高それぞれで取り組める読書ビンゴを作成した。ゲーム感覚で読書の幅を広げることができ、子どもたちに大好評だった。パーフェクトビンゴ賞は「もう一冊貸出券」でこれを目指して本を読む子どもも増えた。また、1月には図書館クイズ、新春おみくじも計画しており、子どもたちもとても楽しみにしている。

イ 「としょだより」の発行

- 毎月の「としょだより」で、その月や季節のおすすめ本や人気のあった本、クラス別の貸し出し冊数、多読者の紹介などを行っている。特に多読者の紹介は名前が載るので、励みになっている子どもも多い。



(3) 学習に関する支援

①教科指導に関すること

- ・調べ学習への支援
(国語科・社会科・総合的な学習)
- ・並行読書の本の選定等の支援 (国語科) ※別紙
- ・学習への動機づけへの支援 (理科) ※別紙

学校図書館司書が中心

※年度当初に以下のような学校図書館や市立図書館の活用計画を各学年で作成し、それを見て子どもに提示する本の選定やブックトーク、読み聞かせを行った。学校図書館司書は図書館担当教諭だけではできない授業中の支援が行えるので、とても有効であることがわかった。

	4月	5月	6月	7月
	教科等 テーマ・単元・内容等	教科等 テーマ・単元・内容等	教科等 テーマ・単元・内容等	教科等 テーマ・単元・内容等
1年	国語 ・図書室の使い方 読み聞かせ(通年) 紙芝居(通年)	国語 ・一人で読める簡単な絵本		国語 ・「としまかんへいこう」 ・「おはなしのくに」
2年	国語 ・図書室の使い方	国語 ・「図書室に行こう」 虫、魚、魚の本	生活 ・「かってみたいな」 ダンゴムシ、アリ、カブトムシ、クワガタの本	国語 ・「きつねのおまやくさま」 あまんきみこの本、キツネの出でくる絵本や童話
3年	国語 ・図書室の使い方 理科 ・自然観察をする際のポケット図鑑(植物・昆虫)	理科 ・モンシロチョウの育て方	国語 ・「日本語のひびきにふれよう」 俳句の本 総合 ・ラベンダーについての本	理科 ・自由研究の本
4年	国語 ・図書室の使い方 理科 ・「季節と生き物(春)」 自然観察をする際のポケット図鑑(植物・昆虫)	国語 ・「分類をもとに本を見つけよう」 漢字辞典の引き方 総合 ・パリアフリー(視覚障害・肢体不自由な方との共存)	国語 ・「日本語のひびきにふれよう」 短歌の本 理科 ・星や月(1) パリアフリー(視覚障害・肢体不自由な方との共存)	理科 ・自由研究の本
5年	国語 ・図書室の使い方 方言		社会 ・米作りに関する本(～7月)	理科 自由研究の本
6年	国語 ・図書室の使い方 「随筆を読んで感動をもとにして書こう」 いろいろな作家の随筆～7月 ・「日本の歴史」人物史～11月		理科 ・「からだのつくりとからだのしくみ」人体の本 総合 ・キャリア教育 国語 ・仕事紹介、体験等の本 ・「読者手紙」 ・「伝えたいことを読書文にまよめよう」 ・「生徒の先生と保護者に贈る本」	国語 ・「川とアリオ」 戦争・原爆に関する本 理科 ・「生物と人の関わり」 ・「図鑑、環境問題の本」 ・自由研究の本

②特別活動に関すること

- ・図書委員会への指導 (図書館担当)
- ・校外学習に関する資料の支援 (図書館担当→市立図書館に依頼)

(4) 学校図書館司書や市立図書館との連携 〈学校図書館司書と行った授業実践〉

- ①第3学年 国語科「モチモチの木」～斎藤 隆介～
「おすすめ図書カードを活用しよう」

○本時のねらい

- ・「モチモチの木」の学習が終わった後、他の斎藤隆介さんの本に触れ、おすすめ図書カードに表現することができる。

○指導の実際

- ・最初に学校図書館司書が大型本を使って「花さき山」の読み聞かせをした。いつもと違った環境の中で話を聞くことで、物語の世界に浸ることができたようだ。その後、市立図書館と学校図書館で集めた斎藤隆介さんの本のブックトークがあり、その中で興味を持った本をそれぞれ読み進めた。その後、心に残った本を一冊選び、おすすめ図書カードをつくった。



○学校図書館司書との話し合い

- ・どんな意図でどのような授業をするのかを具体的に話し、本の選定や収集を学校図書館司書にお願いした。本校の図書室には思ったより斎藤隆介さんの蔵書が少なく、市立図書館から借りることになった。市内の学校も学習の進度がほぼ同じなので、たくさん本を収集することはできなかったが、二人で一冊程度本を集めることができた。また、読み聞かせについても大型絵本を使った方が効果的ではないかと学校図書館司書から提案があり、実際に使ったところ、子どもたちは物語の世界にしっかり入ることができた。



②第5学年 国語科「古典」を楽しむ

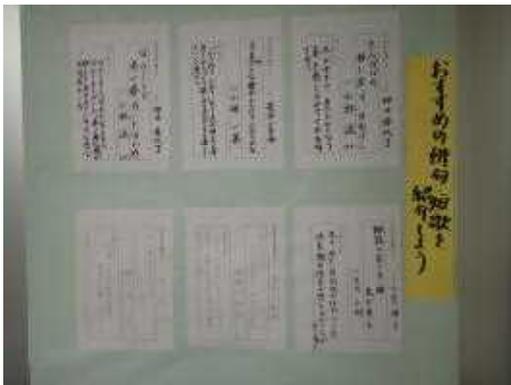
俳句・短歌を作ろう ～俳句にふれよう～

○本時のねらい

- ・教科書の俳句・短歌にふれる前に、学校にある図書資料の中から近代・現代の俳句について学校図書館司書が紹介することで、古典に対する興味関心を高める。

○指導の実際

- ・短歌や俳句の本を気軽に手に取ることができるように、オープンスペースに「和歌・短歌コーナー」を設置した。学校図書館の本の選書については、学校図書館司書が担当した。今回は単元の導入で学校図書館司書が授業に関わることにした。
- ・俳句というと古い作品ばかりを想像しがちだが、近代・現代の俳句を中心に紹介したことで子どもたちは、俳句を身近に感じたようだった。また、俳句を作る上で大切な「季語」についてもクイズ形式で行ったので、作品には「季語」を必ず入れなくてはならないという意識が高まった。さらに、取り上げた作品も楽しいものが多かったので、これから俳句を作っていこうという意欲付けにもつながった。



○学校図書館司書との話し合い

- ・単元の学習計画をもとに、担任の空き時間に学校図書館司書との話し合いの時間をもった。学校にある歳時記の本が少ないことがわかったので、市立図書館から資料の補充をして、一人一冊程度手に取ることができるようにした。ブックトークを行う本については、後日相談をする時間をとった。今回は空き時間を利用して勤務時間に打ち合わせができたが、学校図書館司書が非常勤の職員なので、打ち合わせの時間の確保が難しいのが現状である。ただ、大変効果があるので、計画的に実施をしていく必要性を感じる。



③ 4 学年 理科「季節と生き物（秋）」授業提案

第 4 学年 1 組 理科学習指導案

1 単元名 季節と生き物（秋）

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、主として学習指導要領第 4 学年の内容「B 生命・地球」に基づき、次のような力を付けるために設定した。

身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境のかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

イ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

本単元は、「生命」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうちの「生命の多様性と共通性」と「生命の連続性」にかかわるものである。第 3 学年の「B(1)昆虫と植物」の学習を踏まえ、第 5 学年の「B(1)物の発芽、成長、結実」「B(2)動物の誕生」へとつながる。

本学年では、「季節と生き物」のシリーズとして、1 年を通じて、気温の変化と動物の活動や植物の成長の関わりを調べていく。季節ごとの探究活動を通して、季節と動植物の様子を関係づけ、動物の活動や植物の成長が、気温の変化と深く関わっているという見方を養う単元である。

(2) 児童の実態

男子 14 名 女子 18 名 合計 32 名

調査日 平成 27 年 9 月 24 日

本学級の児童は、生活経験から自分なりの考えをもち、意欲的に学習を進めることができる。アンケート結果より、「じしゃくのふしぎを調べよう」や「ゴムや風でものをうごかそう」など、実験や作業のあるエネルギー領域の学習を特に興味をもっていることがわかる。「電池のはたらき」の学習では、乾電池の向きやつなぎ方を考え、教え合う姿が見られるなど、グループでの実験や話し合いでも協力して活動できるようになってきた。

本単元「季節と生き物」の入る生命の領域を楽しいと挙げた児童は、全体の 4 分の 1 ほどである。エネルギー領域は、即時的に結果の出る学習が多いのに比べ、生命の領域は観察や飼育など時間がかかるものが多く、興味・関心を持続しづらいためと考える。

「季節と生き物シリーズ」は、春から里山観察に森林インストラクターに同行してもらい、学習を進めている。児童は、森林インストラクターから具体的に教えていただくことでポイントをおさえて観察することができるようになってきた。また、気になることやわからないことがあった時には、森林インストラクターに直接質問することも可能である。アンケートで「里山の先生に聞く」が「教科書や図書資料で調べる」と同数近く

回答した児童が多いことから、森林インストラクターを頼りにしていることがうかがえる。

「図書資料で調べる」と回答した児童の中には、手近にある教科書や手当たり次第図書資料を見ている場合があり、図書資料をうまく使いこなせているとは言えない。

(3) 指導観

本単元では、観察、記録を繰り返し行う場として、学校近くの里山に拠点を置いて学習を進めていく。年間を通して、里山や動植物に専門的な知識をもつ森林インストラクターの方に同行していただき、動植物の見方、観察の仕方について現地で具体的に教授していただく。様々な動植物が季節によって様子を変え、違いがあることを理解させるために意図的に配置している。既に行っている「季節と生き物（春）」と「季節と生き物（夏）」では、森林インストラクターに入っていたことで、見落としがちな草花や幼虫などにも焦点を当てることができた。また、動植物の顕著な変化を示していただけなので、児童は何をどのように観察したらよいかを理解することができた。「季節と生き物（秋）」の学習を進めるにあたり、森林インストラクター等による外的なはたらきに加え、自ら調べ考えることを取り入れることで、より深く理解させていきたいと考えている。

図書資料の利点は、現場へ出かけていなくても、その場で動植物の変化の様子や違いがわかることである。これまで森林インストラクターの話から培われてきた動植物への興味・関心を自ら図書資料を用いて確認することにより、変化の様子や違いがより一層の理解につながることをねらっている。また、図書館司書に入っただき動植物についての知識と理解を深めていきたいと考えている。

これまで児童は、動植物の調べ学習を進める際に、図鑑等を用いることが多い。昔ながらの図鑑では、様々な種類が羅列されてはいるが、動植物の生態について詳しく知ることはできない。また、眺めているだけで理解した気分になってしまうこともある。しかし、絵本や写真絵本の中には、動植物の生態を詳しく知る手がかりになるものも少なくない。そこで、図書館司書に「森林の動植物」をテーマに読み聞かせやブックトークをしていただくことにより、児童の興味・関心を高め、動植物への理解を深めていきたいと考えている。

今まで何度も里山観察をしたことで、里山の動植物について理解したと思っている児童にとって図書資料からの知識は新鮮にうつるだろう。里山現地学習の前に図書館司書とTTで学習することにより、児童の知的好奇心を高めていきたい。さらに、最近の図鑑事情についても触れていきたいと考えている。

3 単元の目標

季節ごとの動物の活動や植物の成長について興味・関心をもって追究する活動を通して、動物の活動や植物の成長を季節と関係づける能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、生物を愛護する態度を育て、動物の活動や植物の成長との関わりについての見方や考え方をもつことができるようにする。

4 指導計画（5時間）

時配	学習内容と学習活動	評価規準（方法）
1 (時)	○前回の授業と比べて、生き物の様子にどのような違いがあると思うか話し合う。 ○図書館司書が、読み聞かせやブックトークをして秋の動植物について考えさせる。	○身近な動物の活動や植物の生長に興味・関心をもち、自分の考えをもとに話し合おうとしている。 (関心・意欲・態度：発表・話し合い) ○身近な動物の活動や植物の生長に興味・関心をもち、進んでそれらの変化と季節の関わりを調べようとしている。 (関心・意欲・態度：発表・活動)
1	○図書資料で秋の動植物について調べる。 ○図書資料から得た情報をもとに、継続して観察を続けている動植物の様子を予想する。	○図書資料で身近な動物の活動や植物の成長の様子を調べることで、里山の動植物の変化を予想しようとしている。 (関心・意欲・態度：発表・ノート)
2	○森林インストラクターとともに里山へ観察に行く。 ・観察カード、虫眼鏡、温度計を持って行き、観察記録をする。 ・教室で思ったことや感じたことを書き加える。	○動植物の様子を観察し、活動や成長の変化を記録している。 (観察の技能：観察カード) ○身近な植物の生長の変化と季節の変化を関係づけて考察している。 (思考・表現：観察カード)
1	○「季節と生き物（春）（夏）」等、これまでの観察カードと比べて、変わっているところについて話し合う。 ・気温の変化と動植物の様子について関係づけて考える。	○身近な植物の成長の変化と季節の変化を関係づけて考察し、自分の考えを表現している。 (思考・表現：観察カード・発表) ○動物の活動や植物の成長は、季節の気温の変化と関係していることを理解している。 (知識・理解：観察カード・ノート)

5 本時の指導

(1) 目標

- ・動植物の秋の様子に関心をもち、進んで変化したか考えようとする。

(自然事象への関心・意欲・態度)

動物の活動や植物の成長が、季節によって違いがあることを理解することができる。

(自然事象についての知識・理解)

(2) 展開

	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>○これまでの里山での学習を振り返り，観察してきた同植物について想起させる。</p> <p>○本時の学習について確認する。</p>	<p>・学習をまとめた資料や写真を見ながら，これまでの学習を想起させやすくする。</p>	<p>学習をまとめた模造紙 里山での写真</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>秋になり，動植物はどのように変化したのだろうか。</p> </div>			
2	<p>○カマキリについて知っていることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫である。 ・たまごが泡っぼい。 ・色は緑や茶色がある。 ・生きている虫を食べる。 	<p>・つぶやきも大切にし，カマキリについて知っていることだけでなく，感じていることも話せるようにする。</p>	<p>カマキリの写真</p>
10	<p>○図書館司書からの読み聞かせを聞く。</p> <p>・「カマキリの生きかた」</p>	<p>・図書館司書の読み聞かせの後，初めて知ったことについて付箋に書くことを告げておく。</p>	<p>写真絵本 『カマキリの生きかた』</p>
			
13	<p>○初めて知ったことや秋のカマキリの様子について思ったことを付箋紙に書き，話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに意見をまとめる。 ・思考ツールに貼る。 <p>・全体で話し合う。</p>	<p>・付箋紙には，一枚に1つの事柄を書くようにさせる。</p> <p>・グループで話し合い，同じような事柄をまとめるようにさせる。</p> <p>・初めて知ったことが見つからない児童には，思ったことなど感想を書くよう声をかける。</p> <p>○図書資料からわかったカマキリの様子を書くことができたか。</p>	<p>付箋紙</p> <p>思考ツール</p> <p>Yチャート</p>

10	○図書館司書のブックトークを聞く。 ・4～5冊程度 ・植物，昆虫，鳥，キノコなど	・里山で観察している動植物についてわかる資料を図書館司書が紹介する。 ・里山への現場学習だけでなく，図書資料からも様々な知識を得ることができることを感じられるようにする。
10	○里山の動植物がどのように変化していくか予想し発表する。	○図書資料から，動植物の変化を理解することができたか。
5	○次時の学習について見通しを持つ。	・次時の活動に生かせるように活動を振りかえさせる。

6 授業後の反省

○子どもたちへの効果

- ・司書が読み聞かせを行い始めると，空気が変わり，子どもたちが本に引き込まれていることを実感した。集中することで，本の良さを改めて感じた。
- ・読書は国語だけでなく，いろいろな教科で大変効果的であることを実感した。
- ・回数を重ねることで，子どもたちも本に触れる機会が増えると思われる。

●行ってみて難しかった点

- ・なかなか担任と学校図書館司書とで打ち合わせをする時間がとれない。分担や内容については時間を要するので，時間的にも余裕をもって計画的に準備を行うことが必要である。
- ・司書は子どもたちの前で話す機会が少ないので，回数を重ねることでさらに慣れていく必要がある。
- ・ブックトークはポイントを絞って行い，持ち時間を確認するとよい。



4 成果と課題

- 学校図書館司書が授業の支援をすると、専門的な観点で図書の選書を行うことができ、子どもたちの指導にもとても有効だった。また、担任とは違う語り口を聞くことで、子どもたちもよく集中し、印象深い授業を行うことができた。
- 学校図書館司書による授業の支援は、国語科だけでなく、社会科，理科，総合的な学習の時間，特別活動等で有効であることがわかった。学校で調べ学習をする際は，図書館を利用しようという気運が職員の中にも浸透した。
- 印西市の場合，学校図書館司書が非常勤であるので，いつでも学校図書館に教員がいるわけでない。教員がいない場合は施錠をしなければならず，子どもが本を読みたいと感じたときにすぐに図書館に行けるわけでない。また，学校図書館司書と担任が授業を組み立てる際も時間が限られてしまうので，限られた時間の中で，効果的に打ち合わせができるように，さらに工夫していくことが必要である。常勤の学校図書館司書の配置を切望している。

指導者 松岡 真紀子
 展開場所 図書室

1 単元名 季節と生き物 (秋)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、主として学習指導要領第4学年の内容「B生命・地球」に基づき、次のような力を付けるために設定した。

身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境のかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

イ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

本単元は、「生命」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうちの「生命の多様性と共通性」と「生命の連続性」にかかわるものである。第3学年の「B(1)昆虫と植物」の学習を踏まえ、第5学年の「B(1)物の発芽、成長、結実」「B(2)動物の誕生」へとつながる。

本学年では、「季節と生き物」のシリーズとして、1年を通じて、気温の変化と動物の活動や植物の成長の関わりを調べていく。季節ごとの探究活動を通して、季節と動植物の様子を関係づけ、動物の活動や植物の成長が、気温の変化と深く関わっているという見方を養う単元である。

(2) 児童の実態

男子 14名 女子 18名 合計 32名
 調査日 平成 27年 9月 24日

質問	回答(人数)
① 楽しいと感じる学習は何ですか？ (複数回答)	・磁石の性質 …… 23名 ・風やゴムの働き …… 20名 ・電気の通り道 …… 20名 ・電気のはたらき …… 18名 ・物の重さ …… 16名 ・光の性質 …… 12名 ・月と星 …… 11名 ・季節と生き物 …… 8名 ・モンシロチョウの観察…7名 ・昆虫の体のつくり… 4名
○ 選んだ理由を書きましょう。	
=学習の内容= 「磁石の性質」「風やゴムの働き」 「電気の通り道」「電気の働き」 「物の重さ」「光の学習」	=主な理由= ・実験は、遊びながら学べる ・実験をすると新しい発見がある ・観察が苦手だから実験の方が好き
「月と星」「季節と生き物」 「モンシロチョウの観察」 「昆虫の体のつくり」	・星や昆虫が好き ・季節に咲く花や生き物の成長がわかる

② 「季節と生き物」の学習で知りたいことがあった時はどうしますか？	・教科書や図書室の本で調べる …… 15名 ・里山の先生に聞く …… 13名 ・インターネットで調べる …… 1名 ・無回答…3名
③ 里山で動植物を観察する時にどんなことに気を付けていますか？	・虫めがねで詳しく観察する …… 11名 ・何がどう変わったかよく見る …… 8名 ・葉の色や花の様子を観察する …… 6名 ・触ってはいけない植物に触らない… 4名 ・必ず気温を書く …… 1名 ・無回答…2名

本学級の児童は、生活経験から自分なりの考えをもち、意欲的に学習を進めることができる。アンケート結果①②より、「じしゃくのふしぎを調べよう」や「ゴムや風でものをうごかさう」など、実験や作業のあるエネルギー領域の学習を特に興味をもっていることがわかる。「電池のはたらき」の学習では、乾電池の向きやつなぎ方を考え、教え合う姿が見られるなど、グループでの実験や話し合いでも協力して活動できるようになってきた。本単元「季節と生き物」の入る生命の領域を楽しいと挙げた児童は、全体の4分の1ほどである。エネルギー領域は、即時的に結果の出る学習が多いのに比べ、生命の領域は観察や飼育など時間がかかるものが多く、興味・関心を持続しづらいためと考える。「季節と生き物シリーズ」は、春から里山観察に森林インストラクターに同行してもらい、学習を進めている。児童は、森林インストラクターから具体的に教えていただくことでポイントをおさえて観察することができるようになってきた。また、気になることやわからないことがあった時には、森林インストラクターに直接質問することも可能である。アンケート②で「里山の先生に聞く」が「教科書や図書資料で調べる」と同数近く回答した児童が多いことから、森林インストラクターを頼りにしていることがうかがえる。「図書資料で調べる」と回答した児童の中には、手近にある教科書や手当たり次第図書資料を見ている場合があり、図書資料をうまく使いこなせているとは言えない。

(3) 指導観

本単元では、観察、記録を繰り返し行う場として、学校近くの里山に拠点を置いて学習を進めていく。年間を通して、里山や動植物に専門的な知識をもつ森林インストラクターの方に同行していただき、動植物の見方、観察の仕方について現地で具体的に教授していただく。様々な動植物が季節によって様子を変え、違いがあることを理解させるために意図的に配置している。既に行っている「季節と生き物(春)」と「季節と生き物(夏)」では、森林インストラクターに入ってもらったことで、見落としがちな草花や幼虫などにも焦点を当てることができた。また、動植物の顕著な変化を示していただけるので、児童は何をどのように観察したらよいかを理解することができた。「季節と生き物(秋)」の学習を進めるにあたり、森林インストラクター等による外的なはたらきに加え、自ら調べ考えることを取り入れることで、より深く理解させていきたいと考えている。図書資料の利点は、現場へ出かけていなくても、その場で動植物の変化の様子や違いがわかることである。これまで森林インストラクターの話から培われてきた動植物への興味・関心を自ら図書資料を用いて確認することにより、変化の様子や違いがより一層の理解につながることをねらっている。また、図書館司書にいただき動植物についての知識と理解を深めていきたいと考えている。これまで児童は、動植物の調べ学習を進める際に、図鑑等を用い

ることが多い。昔ながらの図鑑では、様々な種類が羅列されてはいるが、動植物の生態について詳しく知ることはできない。また、眺めているだけで理解した気分になってしまうこともある。しかし、絵本や写真絵本の中には、動植物の生態を詳しく知る手がかりになるものも少なくない。そこで、図書館司書に「森林の動植物」をテーマに読み聞かせやブックトークをしていただくことにより、児童の興味・関心を高め、動植物への理解を深めていきたいと考えている。

今まで何度も里山観察をしたことで、里山の動植物について理解したと思っている児童にとって図書資料からの知識は新鮮にうつらだろう。里山現地学習の前に図書館司書とＴＴで学習することにより、児童の知的好奇心を高めていきたい。さらに、最近の図鑑事情についても触れていきたいと考えている。

3 単元の目標

季節ごとの動物の活動や植物の成長について興味・関心をもって追究する活動を通して、動物の活動や植物の成長を季節と関係づける能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、生物を愛護する態度を育て、動物の活動や植物の成長との関わりについての見方や考え方をもちつことができるようにする。

4 指導計画（5時間）

時配	学習内容と学習活動	評価規準（方法）
1 (本時)	○前回の観察と比べて、生き物の様子にどのような違いがあると思うか話し合う。 ○図書館司書が、読み聞かせ及びブックトークをして秋の動植物について考えさせる。	○身近な動物の活動や植物の成長に興味・関心を持ち、自分の考えをもとに話し合おうとしている。 (関心・意欲・態度：発表・話し合い) ○身近な動物の活動や植物の成長に興味・関心を持ち、進んでそれらの変化と季節の関わりを調べようとしている。 (関心・意欲・態度：発表・活動)
1	○図書資料で秋の動植物について調べる。 ○図書資料から得た情報をもとに、継続して観察を続けている動植物の様子を予想する。	○図書資料で身近な動物の活動や植物の成長の様子を調べることで、里山の動植物の変化を予想しようとしている。 (関心・意欲・態度：発表・ノート)
2	○森林インストラクターとともに里山へ観察に行く。 ・観察カード、虫めがね、温度計を持っていき、観察記録をする。 ・教室で思ったことや感じたことを書き加える。	○動植物の様子を観察し、活動や成長の変化を記録している。 (観察の技能：観察カード) ○身近な植物の成長の変化と季節の変化を関係づけて考察している。 (思考・表現：観察カード)
1	○「季節と生き物（春）（夏）」等、これまでの観察カードと比べて、変わっているところについて話し合う。	○身近な植物の成長の変化と季節の変化を関係づけて考察し、自分の考えを表現している。 (思考・表現：観察カード・発表)

・気温の変化と動植物の様子について関係づけて考える。	○動物の活動や植物の成長は、季節の気温の変化と関係していることを理解している。 (知識・理解：観察カード・ノート)
----------------------------	--

5 本時の指導

(1) 目標

- ・動植物の秋の様子に関心を持ち、進んで変化したか考えようとする。
(自然事象への関心・意欲・態度)
- ・動物の活動や植物の成長が、季節によって違いがあることを理解することができる。
(自然事象についての知識・理解)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	○これまでの里山での学習を振り返り、観察してきた動植物について想起させる。 ○本時の学習について確認する。 秋になり、動植物はどのように変化したのだろうか。	・学習をまとめた資料や写真を見ながら、これまでの学習を想起させやすくする。	学習をまとめた 模造紙 里山での写真
2	○カマキリについて、知っていることを話し合う。 ・昆虫である。 ・たまごが泡っぽい。 ・色は緑や茶色がある。 ・生きている虫を食べる。	・つぶやきも大切にし、カマキリについて知っていることだけでなく、感じていることも話せるようにする。	カマキリの写真
10	○図書館司書からの読み聞かせを聞く。 ・「カマキリの生きかた」	・図書館司書の読み聞かせの後、初めて知ったことについて付箋に書くことを告げておく。	写真絵本 『カマキリの生きかた』
13	○初めて知ったことや秋のカマキリの様子について思ったことを付箋紙に書き、話し合う。 ・グループごとに意見をまとめる。 ・思考ツールに貼る。 初めて知ったこと 秋のカマキリ (グループ：Iチャート)	・付箋紙には、1枚に1つの事柄を書くようにさせる。 ・グループで話し合い、同じような事柄をまとめるようにさせる。 ・初めて知ったことが見つからない児童には、思ったことなど感想を書くように声をかける。	付箋紙 思考ツール Iチャート

	<p>・全体で話し合う。</p> <p>(全体：Yチャート)</p>	<p>○図書資料からわかったカマキリの様子を書くことができたか。</p>	<p>Yチャート</p>
10	<p>○図書館司書のブックトークを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5冊程度 ・植物 ・昆虫 ・鳥 ・きのこ など 	<p>・図書館司書が里山で観察している動植物についてわかる図書資料を紹介する。</p> <p>・里山への現場学習だけでなく、図書資料からも様々な知識を得ることができることを感じられるようにする。</p>	<p>図書資料</p>
5	<p>○里山の動植物がどのように変化しているか予想し、発表する。</p> <p>○次時の学習について見通しをもつ。</p>	<p>○図書資料から、動植物の変化を理解することができたか。</p> <p>・次時の活動に生かせるように本時の活動をふり返らせる。</p>	

(3) 板書計画

